

- (16) 小河川におけるN, P流達率に関する研究 (討 議)

建設省土木研究所 山口 高志

汚濁流出現象はひと口にいえば、流域に対するほぼ恒常的な補給があって、降雨等の擾乱を含めて流送能力がこれを河川に送り出し、いわば河川の水質を形成するという形になると思われる。その間その物質の特性の差異によって、あるものは沈降、再浮遊、分解、分解等の作用を受けてさまざまな動態を示す。それ故最終的な目的を汚濁流出あるいは水質の予測またはシミュレーションにおき、しかもその研究を現地調査の形で行う場合、研究の範囲も上記路線部すべての物理、化学あるいは生物学的解釈が加えられない限り、完全なものにならないと私は考える。また逆にこれを私のポテンシャルの範囲と考えていいただいてもほとんど間違いはない。

そのあうは意味で精度の問題はさておいて、すべての面への配慮がなされているのは、⑭であり、次いで⑮と
いうことになる。これは、この両者が3~5 kmの小流域を対象にされているのに比して、⑭は、数百kmの流域を
扱って知られるので、せんかたにないように思われるが、やはり今後小流域の流出過程の研究に入っていけるお
つもりか[※]、[†]同様にいい。加えて多くの項目について調査をなさっているが、その中で、小流域による調査項
目に欠けているもので、測ってメリットのあるものを指摘ねがえればありがたいと思う。

始めにかえって、流出過程の内部にしろるとめとさきになるが、⑭については申し上げることはおにもなく、1年間およびその後の労苦に頭が下る。その上、N.P.に属する両天時音と分をはっきり示していただい。これは我々が常日頃、やりたいたと思っていることなのである。にだ注文をつけさせていただけば、両天時の変化の表現については、図のみにくさを含め賛成しかねる。とくに図-8については、 L_0 , Q_0 が割る意味、無理に回帰式を求め、相関係数を求める意味はよくわからない。相関係数は論文についていえることだが、ループをなす等の特性がわかっているものにこの種の整理、そして相関係数を求めることの意義はあまりないのではないだろうか。なお最後の頁の時留量の測定あるいは内容について御説明がましい。⑭についてもめまりに相関係数にこだわられているが、相関が無いめとの発展が期待できないので、私としてはめまり面白くない。

⑤については、^{大筋の趣意をこの}丁度にもやっていることなので、多く御質問したい。以下簡条書にあると、

6. $\tau_c = 0.3 \text{ kg/m}^2$ についての説明

(1) 30回生态学年鑑 II-261 都市域からの雨天汚濁流出(その4) -合流式下水道からの汚濁流出シミュレーション- 山口高志